令和 7 年 2 月 1 9 日民生文教常任委員会説明資料「第 4 次芦屋市環境計画（原案）及び
 芦屋市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（原案）の策定について」の訂正について

標記の件につきまして、下記のとおり誤りがありました。

訂正に至る原因といたしましては、市民の皆さまからお寄せいただいたご意見を公表用の一覧表に転記する際 1 件漏れがあったものでございます。このことを重く受け止め、今後の再発防止策といたしまして、転記等の事務における作業手順やチェック方法の見直しを行ってまいります。

なお、タブレット端末上の資料については、2 月 1 9 日に調査が終了しているため、差替えはしておりません。

記

令和 7 年 2 月 1 9 日民生文教常任委員会説明資料 正誤内容

◆ 2 ページ 2 提出件数：7 人 (正) 2 8 件 (誤) 2 7 件

4 意見の要旨及び市の考え方：取扱区分 D（原案のとおりとします）(正) 9 件 (誤) 8 件

◆資料 1 2 ページ（追加）

28	芦屋市 地球温暖化 対策実行計画 (区域施策編)	P57	D	<p>【緑の CO2 吸収機能】</p> <p>地球温暖化が進み、夏の暑さが最高値を毎年更新するような状況下で、世界の都市で重要視されているのは「樹冠被覆率」（土地の面積に対し、樹冠（樹木の枝葉が茂っている部分）が覆う面積の割合を示す）です。暑さから命を守る木陰＝対策として、またヒートアイランド現象対策として樹冠被覆率 30% をめざしている都市もあります。ただ芝生でも草地でも緑でおおわれていればいいということでは命の補償にならないということです。街路樹が大きな役割を果たすと思いますが、枝葉をバッサリ切り落とす強剪定では、緑陰効果は期待できないし、CO2 吸収効果も削減されてしまいます。雨水を地下浸透させる効果も薄らいでしまいます。国際文化住宅都市をなめる芦屋市として、日本の中で先進の地位を占めうるような樹冠緑被率を指標として取り上げてもらいたい。地球温暖化対策であればなおさらのことです。</p> <p>本実行計画（区域施策編）では、市全体の緑の CO2 吸収機能（グリーンカーボン）の強化が重要であることを記載しており、樹冠被覆率の向上は、グリーンカーボンの強化にもつながる重要な要素だと認識しております。</p> <p>なお、本市の「緑の基本計画」においては地域の皆さまと共に考えながら、街路樹等が適正に管理されることを目指しています。当該計画は緑被率（上空から見て、樹林地・草地・農地などの緑で覆われている区域の面積の割合）を参考としていることから、樹冠被覆の考えも含め、緑の質の向上に努めてまいります。</p>
----	-----------------------------------	-----	---	---

以上